

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名 ソーシャルワーク演習	期別 後期	曜日・時限 火5	単位 2
	担当者 知名 孝	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは各教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい ①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 ③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。	メッセージ 本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本を学ぶ。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていこう。
	到達目標 ①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。 ②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～</td> <td>ソーシャルワークとは何か調べる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ソーシャルワークの目的と使命</td> <td>目的と使命を調べる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ソーシャルワークの価値規範と倫理</td> <td>価値規範と倫理について調べる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自己覚知① 自己理解</td> <td>自己覚知について調べる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>自己覚知② 他者理解</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術</td> <td>コミュニケーションについて調べる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用</td> <td>面接技術について調べる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング</td> <td>展開過程について調べる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理</td> <td>記録について調べる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グループダイナミクスの活用① グループワークの構成</td> <td>グループダイナミクスを調べる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション</td> <td>プレゼンテーションについて調べる</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>まとめと振り返り</td> <td>各自の学びを評価し共有する</td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる	2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる	3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる	4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる	5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む	6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる	7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む	8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる	9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む	10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる	11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む	12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる	13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる	14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む	15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる	16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する
回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる																																																		
2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる																																																		
3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる																																																		
4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる																																																		
5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む																																																		
6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる																																																		
7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む																																																		
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる																																																		
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む																																																		
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる																																																		
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む																																																		
12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる																																																		
13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる																																																		
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む																																																		
15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる																																																		
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する																																																		
	テキスト・参考文献・資料など 『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座13 ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規出版																																																			
	学びの手立て ①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦める。																																																			
	評価 ※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）																																																			

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	1年	授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは各教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>本演習では、ソーシャルワーカーの基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行います。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
到達目標	<p>①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。</p> <p>②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる
	3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる
	4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる
	5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む
	6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる
	7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる	
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む	
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる	
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む	
12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる	
13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる	
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む	
15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。	
学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦める。</p>		
評価	※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	1年	授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは各教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本を学ぶ。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていこう。</p>
到達目標	<p>①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。</p> <p>②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																																		
	<p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～</td> <td>ソーシャルワークとは何か調べる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ソーシャルワークの目的と使命</td> <td>目的と使命を調べる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ソーシャルワークの価値規範と倫理</td> <td>価値規範と倫理について調べる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自己覚知① 自己理解</td> <td>自己覚知について調べる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>自己覚知② 他者理解</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術</td> <td>コミュニケーションについて調べる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用</td> <td>面接技術について調べる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング</td> <td>展開過程について調べる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理</td> <td>記録について調べる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グループダイナミクスの活用① グループワークの構成</td> <td>グループダイナミクスを調べる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション</td> <td>プレゼンテーションについて調べる</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>まとめと振り返り</td> <td>各自の学びを評価し共有する</td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる	2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる	3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる	4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる	5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む	6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる	7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む	8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる	9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む	10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる	11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む	12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる	13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる	14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む	15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる	16	まとめと振り返り
回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる																																																	
2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる																																																	
3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる																																																	
4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる																																																	
5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む																																																	
6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる																																																	
7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む																																																	
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる																																																	
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む																																																	
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる																																																	
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む																																																	
12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる																																																	
13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる																																																	
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む																																																	
15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる																																																	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する																																																	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座13 ソーシャルワーク演習[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>																																																		
学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦める。</p>																																																		
評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p>																																																		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	1年	授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは各教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本を学ぶ。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていこう。</p>
到達目標	<p>①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。</p> <p>②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる
	3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる
	4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる
	5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む
	6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる
	7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる	
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む	
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる	
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む	
12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる	
13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる	
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む	
15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。	
学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦める。</p>		
評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高江洲 あやこ	2年	各教員にE-mailで連絡してください。 連絡先は授業初回で提示します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p>	<p>ソーシャルワーク実習前の学習体験として、個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
到達目標	<p>具体的な事例等（集団に対する事例含む。）を活用し、支援をする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に理解し、習得します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	利用者理解の方法について調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命、価値規範と倫理	利用者理解の方法について調べる
	3	社会福祉士の実践を理解する①虐待（児童）	実習機関・施設の動向を調べる
	4	社会福祉士の実践を理解する②虐待（障害者）	実習機関・施設の動向を調べる
	5	社会福祉士の実践を理解する③虐待（高齢者等）	利用者の動向や利用状況を調べる
	6	社会福祉士の実践を理解する④ひきこもり	利用者の動向や利用状況を調べる
	7	社会福祉士の実践を理解する⑤貧困	グループ発表の準備をする
	8	社会福祉士の実践を理解する⑥認知症	グループ発表の準備をする
	9	社会福祉士の実践を理解する⑦終末期ケア	ボランティア活動を行う
	10	社会福祉士の実践を理解する⑧災害時	ボランティア活動を行う
	11	社会福祉士の実践を理解する⑨その他の危機状態にある事例（権利擁護活動）	ボランティア活動の発表準備を行う
	12	社会福祉士の実践を理解する⑩更生保護	ボランティア活動の発表準備を行う
	13	社会福祉士の実践を理解する⑪多文化・国際社会福祉	レポート課題に取り組む
	14	社会福祉士の実践を理解する⑫地域福祉（社会福祉協議会）	レポート課題に取り組む
15	社会福祉士の実践を理解する⑬地域福祉（自治会・NPO法人）	個別面談の準備をする	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
----	---

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	--

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> <p>（2）次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 純子	2年	各教員にE-mailで連絡してください。 連絡先は授業初回で提示します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p>	<p>ソーシャルワーク実習前の学習体験として、個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
到達目標	<p>具体的な事例等（集団に対する事例含む。）を活用し、支援をする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に理解し、習得します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	利用者理解の方法について調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命、価値規範と倫理	利用者理解の方法について調べる
	3	社会福祉士の実践を理解する①虐待（児童）	実習機関・施設の動向を調べる
	4	社会福祉士の実践を理解する②虐待（障害者）	実習機関・施設の動向を調べる
	5	社会福祉士の実践を理解する③虐待（高齢者等）	利用者の動向や利用状況を調べる
	6	社会福祉士の実践を理解する④ひきこもり	利用者の動向や利用状況を調べる
	7	社会福祉士の実践を理解する⑤貧困	グループ発表の準備をする
	8	社会福祉士の実践を理解する⑥認知症	グループ発表の準備をする
	9	社会福祉士の実践を理解する⑦終末期ケア	ボランティア活動を行う
	10	社会福祉士の実践を理解する⑧災害時	ボランティア活動を行う
	11	社会福祉士の実践を理解する⑨その他の危機状態にある事例（権利擁護活動）	ボランティア活動の発表準備を行う
	12	社会福祉士の実践を理解する⑩更生保護	ボランティア活動の発表準備を行う
	13	社会福祉士の実践を理解する⑪多文化・国際社会福祉	レポート課題に取り組む
	14	社会福祉士の実践を理解する⑫地域福祉（社会福祉協議会）	レポート課題に取り組む
15	社会福祉士の実践を理解する⑬地域福祉（自治会・NPO法人）	個別面談の準備をする	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
----	---

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	--

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> <p>（2）次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的に実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮良 あさの	2年	各教員にE-mailで連絡してください。 連絡先は授業初回で提示します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p>	<p>ソーシャルワーク実習前の学習体験として、個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
到達目標	<p>具体的な事例等（集団に対する事例含む。）を活用し、支援をする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に理解し、習得します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	利用者理解の方法について調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命、価値規範と倫理	利用者理解の方法について調べる
	3	社会福祉士の実践を理解する①虐待（児童）	実習機関・施設の動向を調べる
	4	社会福祉士の実践を理解する②虐待（障害者）	実習機関・施設の動向を調べる
	5	社会福祉士の実践を理解する③虐待（高齢者等）	利用者の動向や利用状況を調べる
	6	社会福祉士の実践を理解する④ひきこもり	利用者の動向や利用状況を調べる
	7	社会福祉士の実践を理解する⑤貧困	グループ発表の準備をする
	8	社会福祉士の実践を理解する⑥認知症	グループ発表の準備をする
	9	社会福祉士の実践を理解する⑦終末期ケア	ボランティア活動を行う
	10	社会福祉士の実践を理解する⑧災害時	ボランティア活動を行う
	11	社会福祉士の実践を理解する⑨その他の危機状態にある事例（権利擁護活動）	ボランティア活動の発表準備を行う
	12	社会福祉士の実践を理解する⑩更生保護	ボランティア活動の発表準備を行う
	13	社会福祉士の実践を理解する⑪多文化・国際社会福祉	レポート課題に取り組む
	14	社会福祉士の実践を理解する⑫地域福祉（社会福祉協議会）	レポート課題に取り組む
15	社会福祉士の実践を理解する⑬地域福祉（自治会・NPO法人）	個別面談の準備をする	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	--

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> <p>（2）次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年	各教員にE-mailで連絡してください。 連絡先は授業初回で提示します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p>	<p>ソーシャルワーク実習前の学習体験として、個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
到達目標	<p>具体的な事例等（集団に対する事例含む。）を活用し、支援をする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に理解し、習得します。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	利用者理解の方法について調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命、価値規範と倫理	利用者理解の方法について調べる
	3	社会福祉士の実践を理解する①虐待（児童）	実習機関・施設の動向を調べる
	4	社会福祉士の実践を理解する②虐待（障害者）	実習機関・施設の動向を調べる
	5	社会福祉士の実践を理解する③虐待（高齢者等）	利用者の動向や利用状況を調べる
	6	社会福祉士の実践を理解する④ひきこもり	利用者の動向や利用状況を調べる
	7	社会福祉士の実践を理解する⑤貧困	グループ発表の準備をする
	8	社会福祉士の実践を理解する⑥認知症	グループ発表の準備をする
	9	社会福祉士の実践を理解する⑦終末期ケア	ボランティア活動を行う
	10	社会福祉士の実践を理解する⑧災害時	ボランティア活動を行う
	11	社会福祉士の実践を理解する⑨その他の危機状態にある事例（権利擁護活動）	ボランティア活動の発表準備を行う
	12	社会福祉士の実践を理解する⑩更生保護	ボランティア活動の発表準備を行う
	13	社会福祉士の実践を理解する⑪多文化・国際社会福祉	レポート課題に取り組む
	14	社会福祉士の実践を理解する⑫地域福祉（社会福祉協議会）	レポート課題に取り組む
15	社会福祉士の実践を理解する⑬地域福祉（自治会・NPO法人）	個別面談の準備をする	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
----	---

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	--

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> <p>（2）次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大久保 礼子	2年	各教員にE-mailで連絡すること。 連絡先は授業初回で提示する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。	個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。※福祉実践現場のソーシャルワーカーからも学びますので、積極的な参加が求められます。
到達目標	①事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得する。 ②利用者、グループ、地域住民等へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解し、説明できる。 ③個別支援計画等、様々な計画の策定方法（プランニングまで）を理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	SWのグローバル定義を復習する
	2	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について①3つのモデル	実践モデルとアプローチを復習する
	3	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について②ミクロ・メゾ・マクロレベル	SWの対象と展開過程を復習する
	4	ケースの発見	ケアマネジメントについて調べる
	5	エンゲージメント(インテーク)	ケアマネジメント(障害者)
	6	アセスメント①アセスメント・ツールの枠組み、使用方法	ケアマネジメント(高齢者)
	7	アセスメント②アセスメントのポイント、ニーズの把握	グループ課題の準備をする
	8	プランニング①プランニングの様式、ポイント、手順	グループ課題の準備をする
	9	プランニング②支援目標・支援計画	グループ発表の準備をする
	10	支援の実施①利用者やその関係者との援助関係の形成	グループ発表の準備をする
	11	支援の実施②利用者やその関係者への権利擁護及び支援	実践事例について調べる
	12	モニタリング	実践事例について調べる
	13	支援の終結と事後評価①支援内容や計画を評価する目的や方法	個別課題に取り組む
14	支援の終結と事後評価②利用者への支援やサービスの評価	個別課題に取り組む	
15	アフターケア	個別課題に取り組む	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト： 『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>	
学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>		
評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%） ※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>(1) 関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。 (2) 次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 純子	2年	各教員にE-mailで連絡すること。 連絡先は授業初回で提示する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。	個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。※福祉実践現場のソーシャルワーカーからも学びますので、積極的な参加が求められます。
到達目標	①事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得する。 ②利用者、グループ、地域住民等へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解し、説明できる。 ③個別支援計画等、様々な計画の策定方法（プランニングまで）を理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	SWのグローバル定義を復習する
	2	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について①3つのモデル	実践モデルとアプローチを復習する
	3	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について②ミクロ・メゾ・マクロレベル	SWの対象と展開過程を復習する
	4	ケースの発見	ケアマネジメントについて調べる
	5	エンゲージメント(インテーク)	ケアマネジメント(障害者)
	6	アセスメント①アセスメント・ツールの枠組み、使用方法	ケアマネジメント(高齢者)
	7	アセスメント②アセスメントのポイント、ニーズの把握	グループ課題の準備をする
	8	プランニング①プランニングの様式、ポイント、手順	グループ課題の準備をする
	9	プランニング②支援目標・支援計画	グループ発表の準備をする
	10	支援の実施①利用者やその関係者との援助関係の形成	グループ発表の準備をする
	11	支援の実施②利用者やその関係者への権利擁護及び支援	実践事例について調べる
	12	モニタリング	実践事例について調べる
	13	支援の終結と事後評価①支援内容や計画を評価する目的や方法	個別課題に取り組む
	14	支援の終結と事後評価②利用者への支援やサービスの評価	個別課題に取り組む
15	アフターケア	個別課題に取り組む	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト： 『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	--

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%） ※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。 (2) 次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮良 あさの	2年	各教員にE-mailで連絡すること。 連絡先は授業初回で提示する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。	個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。※福祉実践現場のソーシャルワーカーからも学びますので、積極的な参加が求められます。
到達目標	①事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得する。 ②利用者、グループ、地域住民等へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解し、説明できる。 ③個別支援計画等、様々な計画の策定方法（プランニングまで）を理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	SWのグローバル定義を復習する
	2	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について①3つのモデル	実践モデルとアプローチを復習する
	3	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について②ミクロ・メゾ・マクロレベル	SWの対象と展開過程を復習する
	4	ケースの発見	ケアマネジメントについて調べる
	5	エンゲージメント(インテーク)	ケアマネジメント(障害者)
	6	アセスメント①アセスメント・ツールの枠組み、使用方法	ケアマネジメント(高齢者)
	7	アセスメント②アセスメントのポイント、ニーズの把握	グループ課題の準備をする
	8	プランニング①プランニングの様式、ポイント、手順	グループ課題の準備をする
	9	プランニング②支援目標・支援計画	グループ発表の準備をする
	10	支援の実施①利用者やその関係者との援助関係の形成	グループ発表の準備をする
	11	支援の実施②利用者やその関係者への権利擁護及び支援	実践事例について調べる
	12	モニタリング	実践事例について調べる
	13	支援の終結と事後評価①支援内容や計画を評価する目的や方法	個別課題に取り組む
	14	支援の終結と事後評価②利用者への支援やサービスの評価	個別課題に取り組む
15	アフターケア	個別課題に取り組む	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト： 『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	--

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%） ※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。 (2) 次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的に実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年	各教員にE-mailで連絡すること。 連絡先は授業初回で提示する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。	個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。※福祉実践現場のソーシャルワーカーからも学びますので、積極的な参加が求められます。
到達目標	①事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技を習得する。 ②利用者、グループ、地域住民等へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解し、説明できる。 ③個別支援計画等、様々な計画の策定方法（プランニングまで）を理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	SWのグローバル定義を復習する
	2	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について①3つのモデル	実践モデルとアプローチを復習する
	3	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について②ミクロ・メゾ・マクロレベル	SWの対象と展開過程を復習する
	4	ケースの発見	ケアマネジメントについて調べる
	5	エンゲージメント(インテーク)	ケアマネジメント(障害者)
	6	アセスメント①アセスメント・ツールの枠組み、使用方法	ケアマネジメント(高齢者)
	7	アセスメント②アセスメントのポイント、ニーズの把握	グループ課題の準備をする
	8	プランニング①プランニングの様式、ポイント、手順	グループ課題の準備をする
	9	プランニング②支援目標・支援計画	グループ発表の準備をする
	10	支援の実施①利用者やその関係者との援助関係の形成	グループ発表の準備をする
	11	支援の実施②利用者やその関係者への権利擁護及び支援	実践事例について調べる
	12	モニタリング	実践事例について調べる
	13	支援の終結と事後評価①支援内容や計画を評価する目的や方法	個別課題に取り組む
	14	支援の終結と事後評価②利用者への支援やサービスの評価	個別課題に取り組む
15	アフターケア	個別課題に取り組む	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト： 『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	--

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%） ※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ・Ⅳに活かしていくことを期待します。 (2) 次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	前期	火2	2
	担当者 荻野 太司	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	ogino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。</p> <p>②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。</p>	<p>個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。</p> <p>社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
	到達目標	
	<p>①事例を活用し、地域福祉の基盤整備と開発に係る実技を習得する。</p> <p>②事前学習を踏まえ、実習機関・施設のある地域のアセスメントの内容、地域の社会資源、実習機関・施設の役割と働きかけの方法等を説明・発表することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	SWの3つのモデルについて調べる
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握	SWの実践レベル・方法を調べる
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	SW実践のプロセスについて調べる
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	基盤整備と開発について調べる
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	地域福祉計画について調べる
	6	プランニング②：目標設定と活動やプログラムの計画・企画	地域包括ケア活動事例を調べる
	7	プランニング③：地域福祉の計画	地域包括ケア活動事例を調べる
	8	活動・プログラムの実施①：プレゼンテーション、ファシリテーション、ネゴシエーション	課題（事例検討）に取り組む
	9	活動・プログラムの実施②：組織化、コーディネート	課題（事例検討）に取り組む
	10	活動・プログラムの実施③：チームアプローチ	課題（事例検討）に取り組む
	11	地域福祉の評価・サービスの評価：地域住民や社会福祉専門職の役割	グループ発表の準備をする
	12	ネットワーキング	グループ発表の準備をする
	13	社会資源の活用・調整・開発	レポート課題に取り組む
	14	ソーシャルアクション	レポート課題に取り組む
15	ミクロ・メゾ・マクロの視点：ソーシャルワーク実習時の課題について	実習時の課題を整理する	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	---

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> <p>(2) 次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	3年	教員のメールに連絡すること。 連絡先は授業初回で提示します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。</p> <p>②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。</p>	<p>個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。</p> <p>社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
	到達目標	
	<p>①事例を活用し、地域福祉の基盤整備と開発に係る実技を習得する。</p> <p>②事前学習を踏まえ、実習機関・施設のある地域のアセスメントの内容、地域の社会資源、実習機関・施設の役割と働きかけの方法等を説明・発表することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	SWの3つのモデルについて調べる
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握	SWの実践レベル・方法を調べる
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	SW実践のプロセスについて調べる
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	基盤整備と開発について調べる
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	地域福祉計画について調べる
	6	プランニング②：目標設定と活動やプログラムの計画・企画	地域包括ケア活動事例を調べる
	7	プランニング③：地域福祉の計画	地域包括ケア活動事例を調べる
	8	活動・プログラムの実施①：プレゼンテーション、ファシリテーション、ネゴシエーション	課題（事例検討）に取り組む
	9	活動・プログラムの実施②：組織化、コーディネート	課題（事例検討）に取り組む
	10	活動・プログラムの実施③：チームアプローチ	課題（事例検討）に取り組む
	11	地域福祉の評価・サービスの評価：地域住民や社会福祉専門職の役割	グループ発表の準備をする
	12	ネットワーキング	グループ発表の準備をする
	13	社会資源の活用・調整・開発	レポート課題に取り組む
	14	ソーシャルアクション	レポート課題に取り組む
15	ミクロ・メゾ・マクロの視点：ソーシャルワーク実習時の課題について	実習時の課題を整理する	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	---

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> <p>(2) 次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲村 小夜子	3年	毎回の講義開始前、終了後に受け付けます。連絡先は、講義初回時に提示します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。</p> <p>②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。</p>	<p>個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態（情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート、模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等）により行います。</p> <p>社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
	到達目標	
	<p>①事例を活用し、地域福祉の基盤整備と開発に係る実技を習得する。</p> <p>②事前学習を踏まえ、実習機関・施設のある地域のアセスメントの内容、地域の社会資源、実習機関・施設の役割と働きかけの方法等を説明・発表することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	SWの3つのモデルについて調べる
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握	SWの実践レベル・方法を調べる
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	SW実践のプロセスについて調べる
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	基盤整備と開発について調べる
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	地域福祉計画について調べる
	6	プランニング②：目標設定と活動やプログラムの計画・企画	地域包括ケア活動事例を調べる
	7	プランニング③：地域福祉の計画	地域包括ケア活動事例を調べる
	8	活動・プログラムの実施①：プレゼンテーション、ファシリテーション、ネゴシエーション	課題（事例検討）に取り組む
	9	活動・プログラムの実施②：組織化、コーディネート	課題（事例検討）に取り組む
	10	活動・プログラムの実施③：チームアプローチ	課題（事例検討）に取り組む
	11	地域福祉の評価・サービスの評価：地域住民や社会福祉専門職の役割	グループ発表の準備をする
	12	ネットワーキング	グループ発表の準備をする
	13	社会資源の活用・調整・開発	レポート課題に取り組む
	14	ソーシャルアクション	レポート課題に取り組む
15	ミクロ・メゾ・マクロの視点：ソーシャルワーク実習時の課題について	実習時の課題を整理する	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する。	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法〔共通科目〕』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>『最新・社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法〔社会専門〕』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>参考文献・資料等：授業時に随時紹介します</p>
----	---

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	--

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>①関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> <p>②次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。</p> <p>②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。</p>	<p>個別指導並びに集団指導を中心とする演習形態(情報検索・ブレインストーミング・カードワーク・マッピング・ディスカッション・ディベート・模擬体験・ゲーム・ロールプレイ・グループスタディ等)により行います。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。</p>
到達目標	<p>①事例を活用し、地域福祉の基盤整備と開発に係る実技を習得する。</p> <p>②事例学習を踏まえ、実習期間・施設のある地域のアセスメントの内容、地域の社会資源、実習機関・施設の役割と働きかけの方法等を説明・発表することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	SWの3つのモデルについて調べる
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握	SWの実践レベル・方法を調べる
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	SW実践のプロセスについて調べる
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	基盤整備と開発について調べる
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者	地域福祉計画について調べる
	6	プランニング②：目標設定と活動やプログラムの計画・企画	地域包括ケアの活動事例を調べる
	7	プランニング③：地域福祉の計画	地域包括ケアの活動事例を調べる
	8	活動・プログラムの実施①：プレゼンテーション、ファシリテーション	課題(事例検討)に取り組む
	9	活動・プログラムの実施②：組織化、コーディネーション	課題(事例検討)に取り組む
	10	活動・プログラムの実施③：チームアプローチ	課題(事例検討)に取り組む
	11	地域福祉の評価・サービスの評価：地域住民や社会福祉専門職の役割	グループ発表の準備をする
	12	ネットワーキング	グループ発表の準備をする
	13	社会資源の活用・調整・開発	レポート課題に取り組む
	14	ソーシャルアクション	レポート課題に取り組む
15	ミクロ・メゾ・マクロの視点：ソーシャルワーク実習時の課題について	実習時の課題を整理する	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>『最新・社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法 [社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟、中央法規</p> <p>参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習はsy会福祉士国家試験受験科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員指導のもと関連科目を履修してください。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。各分野(障害・児童・地域・医療等)で体験することを薦めます。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>*評価方法・割合：課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度(10%)、</p> <p>*評価基準：受講態度(授業への参加)については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1)関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> <p>(2)次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ	後期	火2	2
	担当者 -宮城 美智子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	G-mailまたは授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を自裁に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 ②実践の質の向上を図るために、スーパービジョンについて体験的に理解する。	ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行います。

到達目標
①ソーシャルワークに必要な実践力や考察力を習得する。 ②ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチを理解し、説明できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～実習の振り返りと学びの課題～	実習時の課題を振り返る
	2	実習での学びを振り返る・活かす①：体験した援助の実際のあり方	分野別発表の準備をする
	3	実習での学びを振り返る・活かす②：施設・機関の機能・役割、他機関との連携・協働	分野別発表の準備をする
	4	実習での学びを振り返る・活かす③：グループによるプレゼンテーションと討議	グループ発表の準備をする
	5	実習での学びを振り返り・活かす④：グループによるプレゼンテーションと討議	グループ発表の準備をする
	6	スーパービジョンの意義・機能・方法について	スーパービジョンについて調べる
	7	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす①：気になる場面、印象に残っている場面	SSTについて調べる
	8	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす②：プロセスレコードの再構成	レポート課題について取り組む
	9	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす③：ロールプレイ	ケースメソッドについて調べる
	10	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす④：ロールプレイ	レポート課題に取り組む
	11	事例研究・事例検討①：利用者を理解するためのニーズの把握	事例をまとめる
	12	事例研究・事例検討②：アセスメント	事例をまとめる
	13	ジェネラリストソーシャルワーク：人と環境の接点・相互作用	GSWについて調べる
	14	ソーシャルワーカーの専門性他職種の協働の意義について	協働について調べる
15	ソーシャルワーカーの価値・倫理と葛藤について	ジレンマについて調べる	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト：『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法 [社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。

学びの手立て
①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習はsy会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員指導のもと関連科目を履修してください。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。各分野(障害・児童・地域・医療等)で体験することを薦めます。

評価
*評価方法・割合：課題(30%)、レポートの内容(30%)、プログラムへの主体的参加(30%)、受講態度(10%) *評価基準：受講態度(授業への参加)については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすことを評価します。

学びの継続
次のステージ・関連科目
(1)関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク実習に活かしていくことを期待します。 (2)次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。

※ポリシーとの関連性 現場を重視した実践的教育を通して福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ	後期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲村 小夜子	3年	毎回の講義開始前、終了後に受け付けます。連絡先は、講義初回時に提示します。	

学びの準備	ねらい ①実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 ②実践の質の向上を図るために、スーパービジョンについて体験的に理解する。	メッセージ ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行います。
	到達目標 ①ソーシャルワークに必要な実践力や考察力を習得する。 ②ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチを理解し、説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～実習の振り返りと学びの課題～	実習時の課題を振り返る
	2	実習での学びを振り返る・活かす①：体験した援助の実際やあり方	分野別発表の準備をする
	3	実習での学びを振り返る・活かす②：施設・機関の機能・役割、他機関との連携・協働	分野別発表の準備をする
	4	実習での学びを振り返る・活かす③：グループによるプレゼンテーションと討議	グループ発表の準備をする
	5	実習での学びを振り返る・活かす④：グループによるプレゼンテーションと討議	グループ発表の準備をする
	6	スーパービジョンの意義・機能・方法について	スーパービジョンについて調べる
	7	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす①：気になる場面、印象に残っている場面	SSTについて調べる
	8	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす②：プロセスレコードの再構成	レポート課題に取り組む
	9	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす③：ロールプレイ	ケースメソッドについて調べる
	10	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす④：ロールプレイ	レポート課題に取り組む
	11	事例研究・事例検討①：利用者を理解するためのニーズの把握	事例をまとめる
	12	事例研究・事例検討②：アセスメント	事例をまとめる
	13	ジェネラリストソーシャルワーク：人と環境の接点・相互作用	GSWについて調べる
	14	ソーシャルワーカーの専門性と他職種との協働の意義について	協働について調べる
15	ソーシャルワーカーの価値・倫理と葛藤について	ジレンマについて調べる	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法〔共通科目〕』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法〔社会専門〕』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します		
	学びの手立て ①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。		
	評価 ※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%） ※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目・次のステージ 実習での学びを活かしながらこれまで学んできたソーシャルワーク演習の総括を行い、社会福祉専門職としての自分の学びと成長の課題について検討し、目標を設定できるようにしましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ	後期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	3年	ogino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 ②実践の質の向上を図るために、スーパービジョンについて体験的に理解する。	ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行います。

到達目標
①ソーシャルワークに必要な実践力や考察力を習得する。 ②ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチを理解し、説明できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～実習の振り返りと学びの課題～	実習時の課題を振り返る
	2	実習での学びを振り返る・活かす①：体験した援助の実際やあり方	分野別発表の準備をする
	3	実習での学びを振り返る・活かす②：施設・機関の機能・役割、他機関との連携・協働	分野別発表の準備をする
	4	実習での学びを振り返る・活かす③：グループによるプレゼンテーションと討議	グループ発表の準備をする
	5	実習での学びを振り返る・活かす④：グループによるプレゼンテーションと討議	グループ発表の準備をする
	6	スーパービジョンの意義・機能・方法について	スーパービジョンについて調べる
	7	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす①：気になる場面、印象に残っている場面	SSTについて調べる
	8	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす②：プロセスレコードの再構成	レポート課題に取り組む
	9	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす③：ロールプレイ	ケースメソッドについて調べる
	10	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす④：ロールプレイ	レポート課題に取り組む
	11	事例研究・事例検討①：利用者を理解するためのニーズの把握	事例をまとめる
	12	事例研究・事例検討②：アセスメント	事例をまとめる
	13	ジェネラリストソーシャルワーク：人と環境の接点・相互作用	GSWについて調べる
	14	ソーシャルワーカーの専門性と他職種との協働の意義について	協働について調べる
15	ソーシャルワーカーの価値・倫理と葛藤について	ジレンマについて調べる	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

テキスト・参考文献・資料など
テキスト：『最新・社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。

学びの手立て
①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。

評価
※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%） ※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。

学びの継続
次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク実習に活かしていくことを期待します。 (2) 次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ	後期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	3年	教員メールに連絡すること。 連絡先は授業初回で提示します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。</p> <p>②実践の質の向上を図るために、スーパービジョンについて体験的に理解する。</p>	<p>ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行います。</p>
到達目標	<p>①ソーシャルワークに必要な実践力や考察力を習得する。</p> <p>②ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチを理解し、説明できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～実習の振り返りと学びの課題～	実習時の課題を振り返る
	2	実習での学びを振り返る・活かす①：体験した援助の実際やあり方	分野別発表の準備をする
	3	実習での学びを振り返る・活かす②：施設・機関の機能・役割、他機関との連携・協働	分野別発表の準備をする
	4	実習での学びを振り返る・活かす③：グループによるプレゼンテーションと討議	グループ発表の準備をする
	5	実習での学びを振り返る・活かす④：グループによるプレゼンテーションと討議	グループ発表の準備をする
	6	スーパービジョンの意義・機能・方法について	スーパービジョンについて調べる
	7	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす①：気になる場面、印象に残っている場面	SSTについて調べる
	8	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす②：プロセスレコードの再構成	レポート課題に取り組む
	9	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす③：ロールプレイ	ケースメソッドについて調べる
	10	利用者との関わりからの学びを振り返る・活かす④：ロールプレイ	レポート課題に取り組む
	11	事例研究・事例検討①：利用者を理解するためのニーズの把握	事例をまとめる
	12	事例研究・事例検討②：アセスメント	事例をまとめる
	13	ジェネラリストソーシャルワーク：人と環境の接点・相互作用	GSWについて調べる
	14	ソーシャルワーカーの専門性と他職種との協働の意義について	協働について調べる
15	ソーシャルワーカーの価値・倫理と葛藤について	ジレンマについて調べる	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『最新・社会福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループスタディ等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修してください。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦めます。</p>
--------	---

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク演習の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：本演習で学んだことを、ソーシャルワーク実習に活かしていくことを期待します。</p> <p>(2) 次のステージ：演習は講義と実習をつなぐものです。専門科目の講義で学んだ知識や学習内容を、演習で模擬的に体験し、実習では具体的・実践的に活用できるようにしましょう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	後期	金 2	2
	担当者 荻野 太司	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます。 各教員にE-mailで連絡すること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワーク実習Ⅰの意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。</p>	<p>実際に実習を行う分野やその利用者を理解するため、また多様な施設や事業所の基本的な理解を深めるために、授業関連だけではなく、各分野（障害・児童・地域・医療等）でのボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。</p>
	到達目標	
	<p>①ソーシャルワーク実習Ⅰ及び実習指導の意義を理解することができる。 ②実習分野、利用者（高齢者・障がい者・児童）の理解が深まる。 ③地域社会における施設・機関の社会的役割等が理解できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	グローバル定義について調べる
	2	社会福祉士の価値と倫理：ソーシャルワークのグローバル定義	倫理綱領について調べる
	3	社会福祉士の価値と倫理：ソーシャルワークの価値規範・倫理綱領	守秘義務について調べる
	4	社会福祉士の価値と倫理：個人のプライバシーの保護と守秘義務等	スーパービジョンについて調べる
	5	ソーシャルワーク実習Ⅰ及び実習指導の意義：スーパービジョンについて	グループで施設理解に向け準備する
	6	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習の主旨について	グループで施設理解に向け準備する
	7	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解①高齢者施設	施設の法的根拠について調べる
	8	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解②障害児者施設（児童）	施設の法的根拠について調べる
	9	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解③障害児者施設（就労・地域生活支援）	施設の法的根拠について調べる
	10	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解④児童福祉施設	コミュニケーション技法を調べる
	11	利用者の理解：ソーシャルワークの知識・技術	コミュニケーション技法を調べる
	12	利用者の理解：基本的なコミュニケーション技術	コミュニケーション技法を調べる
	13	利用者の理解：基本的な面接技術	ボランティア体験をまとめる
	14	記録の重要性と書き方①：実習記録への記録内容	ボランティア体験をまとめる
15	記録の重要性と書き方②：実習記録への記録方法	総括レポートをまとめる	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 1 1 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。課題にはしっかり取り組み、提出期限を守ってください。</p> <p>②本科目は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>③社会福祉士基礎科目については、科目間の関連性を意識して受講してください。特に並行して受講する「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ」等は重要です。</p>
--------	---

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク実習指導の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の発展的科目は「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」です。科目間の関連性を意識し受講し、「ソーシャルワーク実習」がスムーズに展開できるように学びましょう。 ・現場での実習を通して、＜福祉・医療・保健・教育の各分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼
-------	--

※ポリシーとの関連性 現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	期別 後期	曜日・時限 金 2	単位 2
	担当者 樋口 美智子	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に教室で受け付けます。 各教員にE-mailで連絡すること。	

学びの準備	ねらい ①ソーシャルワーク実習Ⅰの意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。	メッセージ 実際に実習を行う分野やその利用者を理解するため、また多様な施設や事業所の基本的な理解を深めるために、授業関連だけではなく、各分野（障害・児童・地域・医療等）でのボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。
	到達目標 ①ソーシャルワーク実習Ⅰ及び実習指導の意義を理解することができる。 ②実習分野、利用者（高齢者・障がい者・児童）の理解が深まる。 ③地域社会における施設・機関の社会的役割等が理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	グローバル定義について調べる
	2	社会福祉士の価値と倫理：ソーシャルワークのグローバル定義	倫理綱領について調べる
	3	社会福祉士の価値と倫理：ソーシャルワークの価値規範・倫理綱領	守秘義務について調べる
	4	社会福祉士の価値と倫理：個人のプライバシーの保護と守秘義務等	スーパービジョンについて調べる
	5	ソーシャルワーク実習Ⅰ及び実習指導の意義：スーパービジョンについて	グループで施設理解に向け準備する
	6	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習の主旨について	グループで施設理解に向け準備する
	7	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解①高齢者施設	施設の法的根拠について調べる
	8	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解②障害児者施設（児童）	施設の法的根拠について調べる
	9	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解③障害児者施設（就労・地域生活支援）	施設の法的根拠について調べる
	10	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解④児童福祉施設	コミュニケーション技法を調べる
	11	利用者の理解：ソーシャルワークの知識・技術	コミュニケーション技法を調べる
	12	利用者の理解：基本的なコミュニケーション技術	コミュニケーション技法を調べる
	13	利用者の理解：基本的な面接技術	ボランティア体験をまとめる
	14	記録の重要性と書き方①：実習記録への記録内容	ボランティア体験をまとめる
	15	記録の重要性と書き方②：実習記録への記録方法	総括レポートをまとめる
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	テキスト・参考文献・資料など 『最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。
----	---

学びの手立て	①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。課題にはしっかり取り組み、提出期限を守ってください。 ②本科目は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ③社会福祉士基礎科目については、科目間の関連性を意識して受講してください。特に並行して受講する「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ」等は重要です。
--------	--

評価	※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%） ※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク実習指導の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・本科目の発展的科目は「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」です。科目間の関連性を意識し受講し、「ソーシャルワーク実習」がスムーズに展開できるように学びましょう。 ・現場での実習を通して、＜福祉・医療・保健・教育の各分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼
-------	--

※ポリシーとの関連性 現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名 ソーシャルワーク実習指導 I	期別 後期	曜日・時限 金 2	単位 2
	担当者 比嘉 昌哉	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			授業終了後に教室で受け付けます。 各教員にE-mailで連絡すること。	

学びの準備	ねらい ①「ソーシャルワーク実習 I」の意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。	メッセージ 実際に実習を行う分野やその利用者を理解するため、また多様な施設や事業所の基本的な理解を深めるために、授業関連だけではなく、各分野（障害・児童・地域・医療等）でのボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。
	到達目標 ①ソーシャルワーク実習及び実習指導の意義を理解することができる。 ②実習分野、利用者（高齢者・障がい者・児童など）の理解が深まる。 ③地域社会における施設・機関の社会的役割等が理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	実習及び実習指導の意義と目的
	3	「SW実習 I」に向けてのオリエンテーション I（主旨説明等）
	4	情報収集の方法
	5	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解①社会福祉協議会
	6	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解②病院・居宅介護支援事業所
	7	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解③障害福祉サービス事業所
	8	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解④放課後等デイサービス事業など
	9	社会福祉士の価値と倫理：SWの倫理綱領、個人のプライバシーの保護と守秘義務等
	10	「SW実習 I」に向けてのオリエンテーション II（直前指導等）
	11	実習計画書の理解と作成に向けて
	12	実習の達成目標と達成課題の理解
	13	利用者の理解：基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術
	14	記録の重要性と書き方：実習記録の内容と方法
	15	実習中起こり得る問題
16	まとめと振り返り	
		時間外学習の内容
		授業の目的を確認する
		実習の意義と目的について調べる
		オリ資料の事前に確認する
		実際に情報収集を行う
		施設の法的根拠等について調べる
		施設の法的根拠等について調べる
		施設の法的根拠等について調べる
		施設の法的根拠等について調べる
		倫理綱領等について調べる
		オリ資料の事前に確認する
		実習計画書の作成
		達成目標・課題を立てる
		コミュニケーション技術を調べる
		記録について調べる
		実習計画書の完成
		直前の準備

テキスト・参考文献・資料など
参考図書：『最新・社会福祉士養成講座8 ソーシャルワークの実習指導 ソーシャルワーク実習[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規。
その他の参考文献・資料等は授業時に随時紹介します。

学びの手立て
①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。課題にはしっかり取り組み、提出期限を守ってください。
②本科目は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。
③社会福祉士基礎科目については、科目間の関連性を意識して受講してください。特に並行して受講する「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習（専門）I・II」等は重要です。

評価
※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、授業への主体的参加（30%）、受講態度（10%）
※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク実習指導の目的・内容・方法を理解し、グループ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。

学びの継続
次のステージ・関連科目
・本科目の発展的科目は「ソーシャルワーク実習指導 II・III」です。科目間の関連性を意識し受講し、「ソーシャルワーク実習 I」がスムーズに展開できるように学びましょう。
・現場での実習を通して、＜福祉・医療・保健・教育の各分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材＞になることを目標に掲げて学びを深めることを期待します。

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	後期	金 2	2
	担当者 岩田 直子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます。 各教員にE-mailで連絡すること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワーク実習Ⅰの意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。</p>	<p>実際に実習を行う分野やその利用者を理解するため、また多様な施設や事業所の基本的な理解を深めるために、授業関連だけではなく、各分野（障害・児童・地域・医療等）でのボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。</p>
	到達目標	
	<p>①ソーシャルワーク実習Ⅰ及び実習指導の意義を理解することができる。 ②実習分野、利用者（高齢者・障がい者・児童）の理解が深まる。 ③地域社会における施設・機関の社会的役割等が理解できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性及び本科目の目的を理解する～	グローバル定義について調べる
	2	社会福祉士の価値と倫理：ソーシャルワークのグローバル定義	倫理綱領について調べる
	3	社会福祉士の価値と倫理：ソーシャルワークの価値規範・倫理綱領	守秘義務について調べる
	4	社会福祉士の価値と倫理：個人のプライバシーの保護と守秘義務等	スーパービジョンについて調べる
	5	ソーシャルワーク実習Ⅰ及び実習指導の意義：スーパービジョンについて	グループで施設理解に向け準備する
	6	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習の主旨について	グループで施設理解に向け準備する
	7	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解①高齢者施設	施設の法的根拠について調べる
	8	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解②障害児者施設（児童）	施設の法的根拠について調べる
	9	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解③障害児者施設（就労・地域生活支援）	施設の法的根拠について調べる
	10	実習分野、施設・機関、地域社会等の理解④児童福祉施設	コミュニケーション技法を調べる
	11	利用者の理解：ソーシャルワークの知識・技術	コミュニケーション技法を調べる
	12	利用者の理解：基本的なコミュニケーション技術	コミュニケーション技法を調べる
	13	利用者の理解：基本的な面接技術	ボランティア体験をまとめる
	14	記録の重要性と書き方①：実習記録への記録内容	ボランティア体験をまとめる
15	記録の重要性と書き方②：実習記録への記録方法	総括レポートをまとめる	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 / 『最新・社会福祉士養成講座 1 1 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規</p> <p>参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。</p>
----	--

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。課題にはしっかり取り組み、提出期限を守ってください。</p> <p>②本科目は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>③社会福祉士基礎科目については、科目間の関連性を意識して受講してください。特に並行して受講する「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ」等は重要です。</p>
--------	---

評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p> <p>※評価基準：受講態度（授業への参加）については、ソーシャルワーク実習指導の目的・内容・方法を理解し、グループスタディ等での役割を積極的に果たすこと等を評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の発展的科目は「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」です。科目間の関連性を意識し受講し、「ソーシャルワーク実習」がスムーズに展開できるように学びましょう。 ・現場での実習を通して、＜福祉・医療・保健・教育の各分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	3年	ogino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目は、ソーシャルワーク実習Ⅱの事前学習を行うことが主たる目的である。実習配属先の理念、方針、法的根拠等について理解を深めることができる。実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。質の高い実習日誌を書くことができるようになる。実習機関／施設が地域社会の中の機関／施設であることを理解することができる。	メッセージ ソーシャルワークの価値、倫理、態度、知識、技術を復習すると共に、ソーシャルワーク実習Ⅱに向けて様々な準備をします。自らの実習テーマや達成目標に向かって意識を高く持って臨みましょう。
	到達目標 ソーシャルワーク実習Ⅱに向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。実習機関／施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。質の高い実習日誌を書くことができるようになる。実習機関／施設が地域社会の中の機関／施設であることを理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション①：ソーシャルワーク実習・実習指導における学習方法や形態、内容について	ミニレポートの作成
	2	オリエンテーション②：ソーシャルワーク実習の意義、評価の内容と仕組みについて	「前年度の実習報告書」を読む
	3	オリエンテーション③：スーパービジョンの意義及び構造について	「個人調書」を作成する
	4	実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解	担当テーマについてグループ学習
	5	実習機関・施設における関連業務（介護等）の基本的理解、関連職種の配置や業務について	担当テーマについてグループ学習
	6	実習機関・施設の利用者及び家族の理解	担当テーマについてグループ学習
	7	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	8	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	9	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解①	現場体験学習の日誌を振り返る
	10	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解②	行事等参加後の日誌を書いてみる
	11	「実習計画」の作成方法について①	実習テーマを考える
	12	「実習計画」の作成方法について②	達成目標を考える
	13	「個別支援計画」について①	「ソーシャルワーク演習Ⅲ」の復習
	14	「個別支援計画」について②	「個別支援計画」の事例を調べる
15	事前訪問の準備	「実習計画書」を修正する	
16	まとめ：実習前最終確認	実習の最終確認を行う	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集、中央法規。 『ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集、中央法規。 『ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集、中央法規。 参考文献：『実習生必携 ソーシャルワーク実習ノート[第3版]』杉本 浩章（みらい、2002） 資料等：授業時に随時紹介します。		
	学びの手立て 履修の心構え：ソーシャルワーク実習Ⅱに向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために：積極的にボランティアを行い視野を広げましょう。関連文献を読みましょう。		
	評価 グループ発表20%、個別発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳにつなげる。
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、ソーシャルワーク実習Ⅱの事前学習を行うことが主たる目的である。実習配属先の理念、方針、法的根拠等について理解を深めることができる。実習機関／施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。質の高い実習日誌を書くことができるようになる。実習機関／施設が地域社会の中の機関／施設であることを理解することができる。</p>	<p>ソーシャルワークの価値、倫理、態度、知識、技術を復習すると共に、ソーシャルワーク実習Ⅱに向けて様々な準備をします。自らの実習テーマや達成目標に向かって意識を高く持って臨みましょう。</p>
到達目標	<p>ソーシャルワーク実習Ⅱに向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。実習機関／施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。質の高い実習日誌を書くことができるようになる。実習機関／施設が地域社会の中の機関／施設であることを理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション①：SW実習Ⅱ・実習指導における学習方法や学習形態、学習内容について	ミニレポートの作成
	2	オリエンテーション②：SW実習Ⅱの意義、評価の内容と仕組みについて	「前年度の実習報告書」を読む
	3	オリエンテーション③：スーパービジョンの意義及び構造について	「個人調書」を作成する
	4	実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解	担当テーマについてグループ学習
	5	実習機関・施設における関連業務（介護等）の基本的理解、関連職種の配置や業務について	担当テーマについてグループ学習
	6	実習機関・施設の利用者及び家族の理解	担当テーマについてグループ学習
	7	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	8	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
9	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解①	現場体験学習の日誌を振り返る	
10	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解②	行事等参加後の日誌を書いてみる	
11	「実習計画」の作成方法について①	実習テーマを考える	
12	「実習計画」の作成方法について②	達成目標を考える	
13	「個別支援計画」について①	「ソーシャルワーク演習Ⅲ」の復習	
14	「個別支援計画」について②	「個別支援計画」の事例を調べる	
15	事前訪問の準備	「実習計画書」を修正する	
16	まとめ：実習前最終確認	実習の最終確認を行う	
実践	テキスト・参考文献・資料など	指定のテキストはありません。随時資料を配布します。	
学びの手立て	<p>履修の心構え：ソーシャルワーク実習Ⅱに向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。学びを深めるために：積極的にボランティアを行い視野を広げましょう。関連文献を読みましょう。</p>		
評価	グループ発表20%、個別発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、ソーシャルワーク演習Ⅲ・Ⅳにつなげる。

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者 比嘉 昌哉	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	授業終了後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、「SW実習Ⅰ」の振り返り及び「SW実習Ⅱ」の事前学習を行うことが主たる目的である。「SW実習Ⅱ」に向けては、実習配属先の理念、方針、法的根拠、利用者および家族の理解、施設（機関）、職員、地域を学習する。また、「SW実習Ⅰ」の学びや評価内容を踏まえて、実習計画書を作成する。ソーシャルワーカーの倫理綱領についても再確認する。</p> <p>到達目標</p> <p>「SW実習Ⅱ」に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 実習機関／施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。</p>	<p>SWの価値、倫理、態度、知識、技術を復習すると共に、「SW実習Ⅱ」に向けて様々な準備をします。自らの実習テーマや達成目標に向かって意識を高く持って臨みましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：SW実習Ⅰの振り返り・SW実習Ⅱにおける学習方法・形態、及び学習内容について	SW実習Ⅰの振り返り
	2	SW実習Ⅱの意義、評価の内容と仕組み；SW実習Ⅰの評価とのすり合わせ①	SW実習Ⅰの評価の確認
	3	SW実習Ⅱの意義、評価の内容と仕組み；SW実習Ⅰの評価とのすり合わせ②	SW実習Ⅰの評価の確認
	4	SW実習Ⅱの意義、評価の内容と仕組み；SW実習Ⅰの評価とのすり合わせ③；実習計画書作成へ	担当テーマについてグループ学習
	5	実習施設・事業者・機関及び地域社会に関する基本的な理解	担当テーマについてグループ学習
	6	実習機関・施設における関連業務の基本的理解、関連専門職の配置や業務について	担当テーマについてグループ学習
	7	実習機関・施設の利用者・家族の理解及びSW実践に係る知識と技術に関する理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	8	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解	倫理綱領、グローバル定義を復習
	9	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解①	現場体験学習の日誌を振り返る
	10	「実習日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解②	行事等参加後の日誌を書いてみる
	11	「実習計画書」の作成①	実習テーマを考える
	12	「実習計画書」の作成②	達成目標を考える
	13	「個別支援計画」について①	「個別支援計画」の作成
14	「個別支援計画」について②	「個別支援計画」の作成	
15	事前訪問の準備	「実習計画書」の修正等	
16	まとめ：実習前最終確認	実習に向けて最終確認を行う	
	テキスト・参考文献・資料など 指定のテキストはありません。随時資料を配布します。		
	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え：「SW実習Ⅱ」に向けた準備を一つひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために：積極的にボランティアを行い視野を広げましょう。関連文献を読みましょう。</p>		
	<p>評価</p> <p>個別発表20%、グループ発表20%、レポート作成25%、実習計画作成10%、ゼミへの主体的参加25%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>SW実習Ⅱ、SW実習指導Ⅲ、SW演習Ⅳにつなげる。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	授業終了後に受付けます。	

学びの準備	ねらい 本科目は、ソーシャルワーク実習Ⅱの事前学習を行うことが主たる目的です。配属分野の制度の復習、実習配属先の概要（理念、法的根拠、利用者および家族の理解、職員の働き、地域連携の取組）を学習します。また、実習計画書を作成します。	メッセージ ソーシャルワークの価値、倫理、態度、知識、技術を復習すると共に、ソーシャルワーク実習に向けて様々な準備をします。自らの実習テーマや達成目標に向かって意識を高く持って臨みましょう。
	到達目標 障害児者福祉分野の政策や法制度の動向を理解することができる。 実習機関／施設の概要、機能、法的根拠等について理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法等について理解を深めることができる。 質の高い実習日誌を書くことができるようになる。 実習機関／施設が地域社会の中の機関／施設であることを理解することができる。	

学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション（ソーシャルワーク実習に向けた学習方法や学習形態、学習内容について）
	2	ソーシャルワーク実習の意義、内容、実施までのプロセスの理解
	3	ソーシャルワークのグローバル定義、倫理綱領の復習
	4	実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解
	5	実習機関・施設における関連業務の基本的理解、関連職種の配置や業務について
	6	実習機関・施設の利用者及び家族の理解
	7	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
	8	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解
学びの実践	9	実習日誌への記録内容及び記録方法に関する理解①
	10	実習日誌への記録内容及び記録方法に関する理解②
	11	実習計画の作成方法について①
	12	実習計画の作成方法について②
	13	個別支援計画について
	14	サービス等利用計画について
	15	事前訪問の準備
	16	まとめ：実習前最終確認
テキスト・参考文献・資料など 随時資料を配布します。		
学びの手立て 履修の心構え：ソーシャルワーク実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。欠席をすると準備に支障が出てくるので欠席しないようにしましょう。 学びを深めるために：積極的にボランティアを行い視野を広げましょう。関連文献を読みましょう。		
評価 グループ発表35%、実習計画等必要書類の作成20%、ゼミへの主体的参加35%、実習日誌の練習10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ソーシャルワーク実習、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、関連演習につなげる。
-------	--

※ポリシーとの関連性 医療・保健・福祉の連携や、多職種と協働できる社会福祉士のあり方について、具体的かつ实际的に理解することができる。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	3年	授業の最後に受け付けます。 ogino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等について理解する。	メッセージ ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。
	到達目標 実習を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。	

学びの準備	到達目標 実習を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
	2	実習成果の確認及び整理（グループ）①：「最も印象に残っている日誌の記録」について	ディスカッションを分析する
	3	実習成果の確認及び整理（グループ）②：「担当（陪席）した面接の記録」について	ディスカッションを分析する
	4	実習成果の確認及び整理（グループ）③：「個別支援計画（事例のまとめ）」について	ディスカッションを分析する
	5	実習成果の確認及び整理（個別）①：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	6	実習成果の確認及び整理（個別）②：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	7	実習成果の確認及び整理（個別）③：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	8	ソーシャルワーク実習ゼミ報告会①：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	9	ソーシャルワーク実習ゼミ報告会②：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	10	ソーシャルワーク実習ゼミ報告会③：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	11	合同実習報告会：実習の評価全体総括	ディスカッションを分析する
	12	実習総括レポート（報告書）作成の意義と作成方法について	報告書を作成する
	13	報告書作成①	報告書を作成する
	14	報告書作成②	報告書を作成する
	15	報告書作成③	報告書を作成する
16	まとめ・実習指導者との交流会	今後の学習課題や進路を考える	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集、中央法規。 『ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集、中央法規。 『ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集、中央法規。 参考文献：『実習生必携 ソーシャルワーク実習ノート[第3版]』杉本 浩章（みらい、2002） 資料等：授業時に随時紹介します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 本科目はソーシャルワーク実習の事後学習として位置付けることができます。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができるよう、文献学習を行うとともに、学外での研修会や講演会にも積極的に参加しましょう。
-------	---

学びの実践	評価 実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 医療・保健・福祉の連携や、多職種と協働できる社会福祉専門職のあり方について、具体的かつ実際に理解することができる。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	3年	授業の最後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等について理解する。	メッセージ ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。
	到達目標 実習を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
	2	実習成果の確認及び整理（グループ）①：「最も印象に残っている日誌の記録」について	ディスカッションを分析する
	3	実習成果の確認及び整理（グループ）②：「担当（陪席）した面接の記録」について	ディスカッションを分析する
	4	実習成果の確認及び整理（グループ）③：「個別支援計画（事例のまとめ）」について	ディスカッションを分析する
	5	実習成果の確認及び整理（個別）①：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	6	実習成果の確認及び整理（個別）②：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	7	実習成果の確認及び整理（個別）③：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	8	ソーシャルワーク実習ゼミ報告会①：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	9	ソーシャルワーク実習ゼミ報告会②：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	10	ソーシャルワーク実習ゼミ報告会③：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	11	合同実習報告会：実習の評価全体総括	ディスカッションを分析する
	12	実習総括レポート（報告書）作成の意義と作成方法について	報告書を作成する
	13	報告書作成①	報告書を作成する
	14	報告書作成②	報告書を作成する
15	報告書作成③	報告書を作成する	
16	まとめ・実習指導者との交流会	今後の学習課題や進路を考える	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『最新・社会福祉士養成講座 1 2 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規、『最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規、『最新・社会福祉士養成講座 1 1 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。		
	学びの手立て 本科目はソーシャルワーク実習の事後学習として位置付けることができます。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができるよう、文献学習を行うとともに、学外での研修会や講演会にも積極的に参加しましょう。		
	評価 実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 医療・保健・福祉の連携や、多職種と協働できる社会福祉専門職のあり方について、具体的かつ実際に理解することができる。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3年	授業の最後に受け付ける。問い合わせは教員のE-mail (mahiga@okiu.ac.jp) へ。	

学びの準備	ねらい ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等について理解する。	メッセージ 「SW実習Ⅱ」の振り返りを通して、ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。
	到達目標 「SW実習Ⅱ」を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
	2	実習成果の確認及び整理（グループ）①：「最も印象に残っている日誌の記録」について	ディスカッションを分析する
	3	実習成果の確認及び整理（グループ）②：「担当した面談等の記録」について	ディスカッションを分析する
	4	実習成果の確認及び整理（グループ）③：「個別支援計画（事例のまとめ）」について	ディスカッションを分析する
	5	実習成果の確認及び整理（個別）①：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	6	実習成果の確認及び整理（個別）②：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	7	実習成果の確認及び整理（個別）③：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	8	実習報告会①：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題（個人のまとめ）	個別の発表準備を行う
	9	実習報告会②：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題（比嘉ゼミ）	個別の発表準備を行う
	10	実習報告会③：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題（児童養護系）	個別の発表準備を行う
	11	実習報告会④：実習の評価全体総括（4ゼミ合同）	ディスカッションを分析する
	12	実習総括レポート（報告書）作成の意義と作成方法について	報告書を作成する
	13	報告書作成①	報告書を作成する
	14	報告書作成②	報告書を作成する
15	報告書作成③	報告書を作成する	
16	まとめ・実習指導者との交流会	今後の学習課題や進路を考える	
テキスト・参考文献・資料など テキストはなし。以下は参考文献。 『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』（最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座11） 『ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』（最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座12） 『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』（最新社会福祉士養成講座6） ※いずれも中央法規。 ※資料等は授業時に随時紹介する。			
学びの手立て 本科目は「SW実習Ⅱ」の事後学習として位置付けられている。実習における具体的な体験や支援内容をSWスキルとして概念化し理論化し体系立てることができるよう、文献での学習を行うとともに、学外での研修会や講演会にも積極的に参加しましょう。			
評価 出席は平常点とし、①ゼミへの主体的参加；20%、②実習報告内容；50%、③その他のレポート；30%とする。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 SW演習Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる。
-------	---------------------------------------

※ポリシーとの関連性 福祉・医療・保健の連携や、多職種と協働できる社会福祉専門職のあり方について、具体的かつ実際に理解することができる。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	授業の最後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題等について理解する。	メッセージ 実習で得た知識や経験を通して、ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。
	到達目標 実習を通しての自らの成長と今後の学習課題を確認できる。 実習総括レポートの作成、報告ができる。 実習生同士でのディスカッションを重ね、ソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	ミニレポートを作成する
	2	実習成果の確認及び整理（グループ）①：「最も印象に残っている日誌の記録」について	ディスカッションを分析する
	3	実習成果の確認及び整理（グループ）②：「担当（陪席）した面接の記録」について	ディスカッションを分析する
	4	実習成果の確認及び整理（グループ）③：「個別支援計画（事例のまとめ）」について	ディスカッションを分析する
	5	実習成果の確認及び整理（個別）①：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	6	実習成果の確認及び整理（個別）②：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	7	実習成果の確認及び整理（個別）③：「日誌」「評価表」について	ミニレポートを作成する
	8	相談援助実習ゼミ報告会①：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	9	相談援助実習ゼミ報告会②：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	10	相談援助実習ゼミ報告会③：実習で学習した内容、自らの成長と今後の課題について	個別の発表準備を行う
	11	合同実習報告会：実習の評価全体総括	ディスカッションを分析する
	12	実習総括レポート（報告書）作成の意義と作成方法について	報告書を作成する
	13	報告書作成①	報告書を作成する
	14	報告書作成②	報告書を作成する
15	報告書作成③	報告書を作成する	
16	まとめ・実習指導者との交流会	今後の学習課題や進路を考える	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規。 参考文献・資料等：授業時に随時紹介します。		
	学びの手立て 本科目は相談援助実習の事後学習として位置付けることができます。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることができるよう、文献学習を行うとともに、学外での研修会や講演会にも積極的に参加しましょう。		
	評価 実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助演習Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる。
-------	---